

宮城県大崎市 中山間地での「やさいバス」実証の取組み

宮城県大崎市産業経済部 安部祐輝



大崎耕土
世界農業遺産



OSAKI
KOUDO

GLOBALLY IMPORTANT
AGRICULTURAL
HERITAGE SYSTEMS

世界農業遺産 大崎耕土

「持続可能な水田農業を支える 大崎耕土の伝統的水管理システム」



宮城県大崎市

人口:約 1 2 2, 0 0 0 人

面積:796.81km²

2006年、1 市 6 町で合併し誕生
古川市、三本木町、松山町、鹿島台町、
岩出山町、鳴子町、田尻町



やさいバスとは

(株)エムスクエア・ラボ
社長 加藤百合子 氏
との出会いから



システム：出荷する



販売価格を決める
※販売価格の15%は当社
手数料



ラベルプリンター
もしくはプリンタ
があると便利



出発！

システム：購入する

探す

注文

バス停へ



到着！

携帯のQRコード
読み取りで受領完了

ケース数は自動で計算
送料は1ケースごとに発生

直販&まるで自社便



Restaurants

- ✓ 2% コスト↓
- ✓ 鮮度UP
- ✓ お客様と会話増で売上UP
- ✓ フランチャイズしやすく



Producers

- ✓ 販路拡大で売上UP
- ✓ ファンづくりができる
- ✓ 配送コスト10%Down
- ✓ 伝票処理なし

✓ QRコードでステータス管理

✓ ペーパーレスで全体の間接コスト圧縮

✓ ダイレクトマーケティング

(1) 実施背景

～取組み地域について～

- 大崎市は、平成18年3月31日に古川市、松山町、三本木町、鹿島台町、岩出山町、鳴子町および田尻町の1市6町が合併して誕生。市内でも過疎地域かつ中山間地である鳴子温泉地域と岩出山地域は、高齢化や農業の担い手不足といった問題が顕著。観光地として知られる鳴子温泉郷もコロナ禍も重なり観光客が減少傾向で、かつてほどの賑わいは見られない。

【鳴子温泉地域】（人口5,352人、世帯数2,552世帯、高齢化率：42.3%、認定農業者60経営体）

【岩出山地域】（人口9,949人、世帯数4,100世帯、高齢化率：37.4%、認定農業者115経営体）

- 主要産業は農業で、H29に「大崎耕土」が世界農業遺産に認定されるなど自然資源に恵まれているが、地元農産物をはじめとした地域資源のPRや住民の認知度は十分とは言えない状況。しかし、NPO法人鳴子の米プロジェクトによる地域水稻品種「ゆきむすび」を通したCSAの取組みやブランド米「ささ結」を中心とした地域づくりも見られ、小規模ながらも意欲のある住民や団体による活動は行われている。

～本事業実施の経緯～

- R1から本市農林振興課が事業実施主体となり、国庫補助事業（中山間地農業ルネッサンス推進事業）を活用し、中山間地域の農産物の資源調査、地域住民を対象とした研修、地元や仙台の飲食店との交流を通した販路拡大につなげる取組みを開始。その中で、地元農産物が地域で十分に認知・消費されていないことや、飲食店からの需要はあるものの配送料が割高といった流通課題があることがわかってきた。

⇒そこで、既存の流通経路を活用することで流通経費や手数料を抑えられるECサイト「やさいバス」を運営する（株）エムスクエア・ラボの加藤百合子代表の講義を農業者向けに開催したところ、実施を希望する声もあり、中山間地農業ルネッサンス推進事業の一環として実証してみることにした。

鳴子温泉・
岩出山地域



鳴子の米プロジェクトの稲刈の様子



世界農業遺産ブランド認証農産物

大崎市「湯治やさいバス@鳴子温泉・岩出山」実証プロジェクト

(2) 実施目的

- 本市中山間地である鳴子温泉地区は、古くからの湯治場で今も湯治客を対象とした旅館があるが、湯治客向けの野菜等を買える場所がないなど、地域の魅力低下の危惧や買物難民という課題を抱えている。
- 流通DXとして生まれた「やさいバス」は、物流・商流をスマホ等で完結できる画期的なBtoBの取組で、直売所を持たない地産地消の仕組みとして国内各地で期待され実践されている。
- 今回の実証では、鳴子温泉～岩出山池月の範囲を実証エリアとして、やさいバスの試行を行うことで、農産物等の地産地消の推進や湯治場の魅力向上に向け、実装に向けた課題や可能性等の検証を行うことを目的とする。

(3) 実施エリア、ルートなど【実証期間：令和4年2月8日（火）～令和4年2月25日（金）】

【実施エリア】



【ルート】

停留所名	往路			復路		
	到着時刻	集荷	配荷	到着時刻	集荷	配荷
①むすびや	9:10	●	●	11:00	●	●
②鳴子郵便局	9:20	●	●	10:50	●	●
③旅館大沼	9:30	●	●	10:40	●	●
④みやま旅館	9:40	●	●	10:30	●	●
⑤川渡郵便局	9:45	●	●	10:25	●	●
⑥池月郵便局	10:10	●	●	10:10	●	●



- ・ ルート上を運搬車が走り、各停留所で、商品の集荷と配荷を行い、順々に停留所を回っていく形を取る。
- ・ 生産者は、注文に応じて商品を時間までに集荷場所に持ってくる。
- ・ 注文者は、最寄りの停留所に到着時間に注文した商品をとりに行く。

大崎市「湯治やさいバス@鳴子温泉・岩出山」実証プロジェクト

(6) 取組みの様子（実証開始日）



大崎市、地産地消促すバス実証事業開始

[illegible]

入は、湯治に取り組む旅館や、観光地などで休暇を取りながら働く『ワーケーション』との相性もいい。人口減少が続く地域でデジタル技術を活用し、地産地消や湯治文化の活性化を図る自治体も出て

2022年度 (R4年度) 2023年度 (R5年度)

(郵便局の
バスストップ
はなしに)

19 やさいバス地消地産フェアの実施

(4) 事業周知のためのPR活動

①東鳴子温泉・川渡温泉の旅館・商店に配布する A4 チラシ

企画コンセプト・開催場所・日時をまとめ、各旅館や商業施設にご協力頂き鳴子温泉郷湯けむり朝市を宿泊されている観光客に配布しました実証期間中に約 2,000 枚を配布しました。

20 やさいバス地消地産フェアの実施

②鳴子温泉郷湯けむり朝市 現地写真

お土産の店なるみ



健身舎



大崎市・バス実証事業第2弾



地元の新鮮野菜をそろえた「湯けむり朝市」。品そろえを確認する遊佐さん（中）
＝東鳴子温泉のおみやげの店なるみ

土産物店などに配送

「鳴子温泉郷 湯けむり朝 みやげの店なるみ」に白菜、市は十日の午前8時半から。大根、小松菜といった新鮮な岩出山と鳴子温泉の生産者10 野菜や鳴子産コメゆきむすび団体が参加し、年末年始を除いて3月12日まで開かれる。27日は「地場野菜を扱った17日朝、東鳴子温泉の「お かった。観光客にも地元の買

大崎市は農産物の地産地消推進システム「湯治やさいバス」実証事業第2弾として、一般客も利用できる朝市を鳴子温泉の2カ所で行った。旅館に設けた滞留所（集配荷場）7カ所と合わせて販路を広げ、温泉街の活性化と事業の「自走化」を目指す。

温泉朝市に野菜お届け

「い物客にも売り込みたい」と新たな品そろえに自信を見せる。

川渡温泉のマッサージ店「健身舎」でも同日、朝市がスタート。野菜を陳列する什器は鳴子産スギ製で、キャラクターは飛騨のイメージだという。

やさいバスは地元の地産地消推進団体「鳴子の米プロジェクト」が運行する。生産者が滞留所に届けた野菜を集荷し、注文に基づいて翌朝配荷。今年2月、鳴子温泉で実施した実証実験の結果を反映させた。

同団体の既存の配達路線を活用し、注文と出荷、決済はスマートフォンアプリで行う。専用容器1箱の配送費は350円に抑えた。

大崎市産業経済部の安部祐輝産業振興局長は事業の定着を目標に掲げる。「注文を受けて出荷するため無駄がない。地域内で配送するため、二酸化炭素の排出削減にもなる。朝市で温泉街のにぎわい創出にもつながりたい」と展望を語る。

地産地消、にぎわい創出へ

実証してみて、山間地での自走にあたっての課題

- やさいバスの仕組みは素晴らしい。（地産地消・CO₂削減・流通DX）
現場の状況，需要側と供給側の掘り起こし，マッチング次第
時期も大事，実証では冬の実施となり，作物が限定的となった。
- デジタル・スマホにまだ抵抗感を持つ人もいる。
参加者に操作法を説明するが，高齢の農家・旅館経営者も多い。
- 地方では自家用車を利用する方がほとんど，安さを求め遠いスーパーへ
地元の旬な農産物の魅力，地産地消の必要性，地域全体の機運づくり
- 受渡拠点 気軽に全国の郵便局との連携ができないものか(費用も抑え)
地域活性化・地域づくりの拠点，1人暮らしの高齢者の食を支える等